

(様式1)

環境配慮検討書

教委第13-175号
平成27年1月9日

三重県環境調整システム推進会議 会長 様

三重県教育委員会事務局
特別支援教育課長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	松阪地域特別支援学校(仮称)整備事業			
連絡先	担当課所名	三重県教育委員会事務局特別支援教育課		
	担当者職・氏名	主幹 大井雅博	電話番号	059-224-2961

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	松阪地域特別支援学校（仮称）整備事業	
(2)目的	県立特別支援学校整備第二次実施計画（改定）にもとづき、児童生徒増による県立特別支援学校玉城わかば学園の教室不足等の課題に対応するため、松阪地域に特別支援学校を整備して、学習環境の改善を図ります。	
(3)事業主体	三重県教育委員会	
(4)計画内容	計画地の位置 位置図を添付すること	松阪市久保町1846-195 1843-242（2筆）13,862㎡ （図 - 1 参照）
	建物・施設等の概要（用途、規模、面積、配置等） 配置図を添付すること	特別支援学校 3階建 RC造 延床面積 約6,000㎡（図 - 2 参照）
	用水の使用計画	上水道利用予定
	エネルギーの使用計画	CO ₂ 排出量の削減などの地球温暖化対策とあわせて、新エネルギーの導入を図り、LED照明の採用等、電力の効率的な利用や太陽光発電装置の導入など再生可能エネルギーを活用する。 空調方式は、地域性、経済性、個別対応性及び運転管理の容易性を考慮し、ガスヒートポンプによるビル用マルチエアコンを採用する。
	雨水、汚水の排水計画	雨水：用地内の既設排水路を經由し大谷池へ自然排水 汚水：下水道処理
	道路・交通計画	県道147号線（松阪嬉野線）に接続
	工期	ア)着工の予定時期 イ)完工及び供用開始の予定時期
(5)関連事業計画	該当なし	
(6)その他	該当なし	

2 計画地の社会的条件の現況等

(1)計画地の社会的条件の現況	交通の現況	三重交通バス：梅村学園口下車、徒歩10分。 児童生徒の通学は、スクールバスを利用予定。
	土地利用の現況	梅村学園校地（旧三重中京大校地）の一部を使用。平成25年3月閉学後、校舎等を大学によって解体、整地した後、県が購入して使用。
	水域利用の現況	雨水排水は、梅村幼稚園に隣接する大谷池に流入している。
	生活関連施設の現況	南側及び北西部に住宅地、周辺に梅村幼稚園、三重中学校、三重高等学校がある。
(2)関係法令等による地域の指定・規制状況	自然環境保全地域等の指定状況	自然環境保全地域（地区）、自然公園地域（区域）、鳥獣保護区 指定なし
	土地利用規制の現況	都市計画法、農業地域振興法、森林法等の規制状況 都市計画法：市街化区域 第一種中高層住居専用地域 屋外広告物条例：適応除外 景観法：松阪市景観計画区域内、通知済み 農業地域振興法：農用地区域外 森林法：指定なし 砂防法：指定地域外 地すべり等防止法：地すべり防止区域外 文化財保護法：指定地域外

3 計画地の自然的条件の現況

(1)地形・地質	文献調査	文献名	梅村学園五十年史 梅村学園七十年史	
	現地調査の有無	有・無(実施日時)	聴取調査の有無	有・無
	調査結果等	丘陵地帯に大学を建築。できる限り元の地形に手を加えず、地形を活かす形で校舎を建築。(図-3参照)		
(2)水象	文献調査	文献名	松阪市景観計画	
	現地調査の有無	有・無(実施日時)	聴取調査の有無	有・無
	調査結果等 河川、湖沼	金剛川：高見山地等を源とし、伊勢湾へ流れ込んでいる。下流域では豊かな水の流れと流域の緑など潤いある景観を形成している。 大谷池：金剛川水系の周辺地域の調整池で、金剛川に放流している。		
	海域	気象又は地震に密接に関連する海域の諸現象は無いと想定		
(3)気象・大気質等	調査の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「津地方気象台ホームページ」(2013年データ) ・平成25年度版 三重県環境白書 		
	調査結果	平均気温：14.8、最高気温：38.9、最低気温：-5.2 年降水量：1,802.5mm/年 平均風速：1.6m 大気質：二酸化硫黄 0.001ppm 二酸化窒素 0.007ppm 浮遊粒子状物質 0.018mg/m ³ (近隣調査地点：松阪市立第五小学校) 騒音：昼(48dB)、夜(42dB)(久保町河原山公園データ)		
(4)生態系等	文献調査	文献名	松阪市環境基本計画	
	現地調査の有無	有・無(実施日時 平成26年8月)	聴取調査の有無	有・無
	調査結果等 植物	植生の概要：更地のため特になし 貴重な植物個体：特になし 貴重な植物群落：特になし		
	動物	動物相の概要：特になし 貴重な動物：特になし		

(5)自然景 観・文化 財等	文献調査	文献名	松阪市環境基本計画 松阪市景観計画		
	現地調査の有無	有 ・ 無	(平成25年4月)	聴取調査の有無	有 ・ 無
	調査結果等 自然景観	<p>自然景観の概要：大学用地としてすでに切り開かれた土地である</p> <p>貴重な自然景観：特になし</p>			
	文化財、 史跡、名勝等	<p>史跡・名勝・天然記念物：史跡 久保古墳（久保町草山） （北、約1km）</p> <p>埋蔵文化財包蔵地：なし</p>			
	野外レクリエ- ション 他	<p>梅村学園グラウンド（東側隣接地）</p> <p>中部台公園（西、約3km）</p>			
(8)その 他、自然災 害等	特になし（梅村学園関係者に確認）				

4 事業計画の検討内容（複数案比較）

*用地選定が異なる計画、同じ用地での異なる計画等との比較を行う。比較検討用の位置図を添付すること。

事業計画案（松阪市久保町）		比較検討案(多気町四疋田 A案:図-5)	
(1)計画の概要	計画地は、旧三重中京大学跡地であり、校舎解体後、整地した後、新たに校舎を建築する。造成を行わず元の地形を活用するため、環境への負荷を少なくすることができると考えられる。	計画地は、多気町天啓公園にあり、造成工事が必要である。自然環境豊かな土地に造成を伴う建築工事を行うことで、環境への負荷が大きいものと考えられる。	
(2)環境評価（*左欄に を相対評価で記入し、右欄に評価の理由を記入） 循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 人と自然が共にある環境の保全 やすらぎとうるおいのある快適な環境の創造			
-1 地球温暖化防止	大学用地を活用し、校舎解体後の土地をそのまま活用するため負荷が少ない。		大規模な土地の造成やライフラインの敷設が必要なため、大規模な開発が伴う。
-2 廃棄物対策	更地に建築するため、廃棄物の発生はない。		大規模な造成工事により、樹木伐採による廃棄物が発生する。
-3 生活環境の保全	大学は5階建であったが、今回は3階建のため生活環境への影響は少ない。		造成や校舎建築等による地形の変化や生活環境への影響が懸念される。
-4 その他重点項目			
-1 野生生物等の生育空間の確保	大学用地であったため、大きな変化を与えない。		自然の林や田畑が周辺にあり、環境への影響の懸念がある。
-2 希少な野生生物の保護	大学用地であったため、貴重な生物の生育・生息はない。		希少生物の確認はないが、環境変化への懸念がある。
-3 地形、地質等の改変の抑止	大学跡地であり、新たな地形改変がほとんどない。		造成を伴うため、大きく地形改変を要する。
-4 その他重点項目			
-1 緑化、周辺景観との調和	大学跡地であり、周辺景観との調査を乱すことは限定的である。		天啓公園が近くにあり、周辺景観との調和に課題がある。
-2 親水等、ふれあい空間づくり	梅村学園のグラウンドが使用可能である。		天啓公園の利用が想定される。
-3 その他重点項目			
上記以外の特記事項			

5 事業計画案の環境配慮に係る評価

長 所	大学用地を活用することで、まわりの自然環境や生活環境への負荷を押さえることができる。
短 所	特になし（工事期間中は限定的ながら環境負荷が予想される）
会議で調整を要する事柄	